

日本赤十字社 御中

## 献血参加者への対応に関する公開質問

私たちは、「HIV 陽性者が秘密を抱えることもなく、社会的な不利益を受けることもなく、HIV 陽性者として、自立したあたりまえの生活ができる社会」を目指して活動しております NPO 法人です。

この数日報道されておりますとおり、今月上旬に献血で採取された血液からエイズウイルスの感染が確認され、その血液が患者 2 名に輸血された事例に関しまして、以下の通り質問させて頂きたく本文書を送付させて頂きました。

- (1) 現在、厚生労働省では改めて HIV 等の検査目的での献血はしないよう呼びかけているところ  
です。献血会場においては、献血にいらした方の動機について具体的にどのように確認して  
いるのでしょうか？
- (2) エイズと言う疾病に対する偏見や誤解が未だ存在し HIV 抗体検査の受検環境が十分整備され  
ていない我が国において、HIV 等の検査を目的の一つとして献血に参加する方は一定数いる  
ものと推測されます。HIV 等の検査については保健所または医療機関での検査を案内するべ  
きと考えますが、献血会場では、そうした説明や案内をどのように実施されているのでしょ  
うか？
- (3) 男性との性的経験がある男性や HIV 陽性者であっても、友人や職場の同僚等に誘われて仕方  
なく献血に訪れる場合も想定されます。このような場合、献血会場ではどのようにスクリー  
ニングをしていますか？
- (4) 献血で集めた血液からエイズウイルスが検出された場合でも、その結果は本人には伝えない  
ことが原則となっていますが、実際には伝えている事例も多々あると聞いております。検査  
結果を本人には伝えないという原則について、献血事業に従事される皆さんには、具体的  
にどのように周知していますか？
- (5) 献血者に検査結果を伝えることは、さらなる検査目的での献血を誘因してしまうと懸念致し  
ます。献血事業の従事者が、検査結果を献血者本人に伝えた事例について、日本赤十字社で  
は把握されていらっしゃいますか？

HIV 陽性者の立場から、また献血事業の性質上、今回のような事例について献血者のモラルや  
個人的責任に帰すような報道について大変懸念しております。献血に参加される方の多くは善意  
であります。一方で、保健所で無料・匿名で検査が受けられることを知らない、献血で採取し  
た血液が HIV 陽性であった場合には教えてもらえらると思っっている、やむを得ず献血に参加する、  
といった人々が少なからずいることを、考慮する必要があるからです。

HIV 陽性者の人権と献血事業の理解のためにも、こちらの回答内容は当団体のホームページ等  
にて公開させていただきたく存じます。

何卒ご回答をいただけますよう、宜しくお願い申し上げます。

### <本件に関するお問い合わせ先>

特定非営利活動法人日本 HIV 陽性者ネットワーク・ジャンププラス (担当: 高久)
〒162-0045 東京都新宿区馬場下町 60 まんしょん早稲田 401
TEL : 03-6233-7023 (平日 13:30~19:30) FAX : 03-6233-7024
WEB : <a href="http://www.janpplus.jp">http://www.janpplus.jp</a> E-mail : <a href="mailto:info@janpplus.jp">info@janpplus.jp</a>